

第14回がん政策サミット2017春「患者家族・医療現場・地域に成果をもたせす次期計画に」 ～他県と共に、がん計画の均てん化を～

グループワーク発表資料

このロジックモデルは、第14回がん政策サミットのグループワークで議論し作成したものです。
当日発表された資料に、事務局で、明らかな誤りの修正、若干の語尾統一を行いました。
また、一部の分野では、グループワークで参考にした資料から引用する形で指標の現状値が記載されておりましたが、その数値は、参考資料の県の数値であるため、本資料では誤解を招かないように削除させていただきました。

これから、47都道府県が次期計画を策定するにあたり、分野別議論のたたき台として活用していただくために、ここに公開いたします。

2017年6月
特定非営利活動法人がん政策サミット

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
検診受診率が高まる	がん種別のがん検診受診率(5大がん)	
		100%
精密検査受診率が高まる	精密検査受診率	
		100%
検診の精度の管理ができています		
地域・職域における対象者数・受診者数を含めた検診データの把握ができています		100%

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
がんの早期発見率が高まる	がん種別それぞれの早期発見率	

事務局追記:
 組織型検診では、①アセスメント(科学的根拠に基づいた検診の実施)、②マネジメント(精度管理)、③受診率対策 の3条件が必要と指導を受けています。詳しくは、第13回がん政策サミット報告書、斎藤博さんのページをご覧ください。

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
【手術】エビデンスのある低侵襲性手術が提供されている	低侵襲性手術を実施している病院の数	
【手術】拠点病院と他の病院の格差がない	標準的治療実施率	
【放射線】質の高い放射線治療を受けられる医療機関が十分ある	放射線治療医師数、放射線治療機器数	
【薬物】患者の希望により地域で化学療法が受けられる	化学療法を実施している医療機関数	
【薬物】ゲノム診断により患者に最適な化学療法が始まっている	ゲノム医療を受けた患者数	
【免疫】免疫療法の正しい情報が提供されている	患者調査で免疫療法について説明を受けて納得した割合	
【免疫】免疫療法の必要な患者が治療を受けられる	科学的根拠のある免疫療法を受けた患者数	
【全体】各分野の治療に関して専門の医療チームが組織されている	専門的なスタッフの揃った各治療のチームが配置されている病院の数	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
質の高い医療を患者が受けられる	がんの部位別5年生存率	
患者が納得した治療を受けられる	患者調査で納得した治療を受けたと回答した割合	

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値
不足している医療職を充実させる(放射線病理等)	医療者のがん専門資格を有する人数	
患者を含めたカンサーボードの開催をすすめる(望んだ場合)	チーム医療のための患者を含めたカンサーボードの開催回数	
医科歯科連携による口腔ケア、食事療法などによる栄養管理、リハビリ推進など職種間の更なる推進	医科歯科連携をしている医療機関数	

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
患者・家族がチームの一員として、納得して「チーム医療」により、支えられていると実感できている	患者・家族がチーム医療を実感できた割合	100%
	「チーム医療」の理解度(患者・家族・医療者)	100%
専門性を生かした医療従事者間の連携ができ、多職種でのチーム医療ができている	がん看護専門外来の受診者数	
	がん患者リハビリテーション料算定件数	
	緩和ケアチームへの依頼件数	
	「異職種間で自由に意見できる雰囲気である」と回答した医療者の割合	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
患者家族がいつでも身体的、精神・心理的負担に対し、安心安全で質の高い医療を受けられている	がん治療の満足度	100%

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
相談支援センターが医療者・患者に認知され患者が適切に支援を受けられる	何%の人が活用したのか	
	満足度調査	
	相談支援センターを紹介された割合	
	認知度調査	
患者自身で必要な情報に手軽にアクセスできる		
病院間のネットワークの構築により、アクセス性の良い状態で患者が適切な医療機関で治療が受けられる	行くべき病院	
希少がん難治性がんに対するより有効性の高い診断・治療法の研究開発ができる	治験がどのくらいあるか	
	新薬の開発はどうか	
希少がん難治性がんの研究結果が臨床現場におけるエビデンスに基づいた標準的治療の確立や医療の提供につながっている	ガイドラインの作成状況	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
どこでも希少がん難治性がんの患者が適切な医療を受けられる	5年生存率	
	満足度調査	

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値
情報提供として、ホームページの充実、コマーシャル(広告)をテレビで流す		
がん教育に緩和ケアを取り入れる		
医療従事者を対象とした、継続した緩和ケア研修を実施する		
緩和ケア研修内容を見直す		
緩和ケアチームを含めて、多職種カンファレンスを実施する		
在宅緩和ケア研修を実施する		
病院と在宅医等のカンファレンスを実施する		
在宅ケアマップを作成する		

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
国民ががんと診断された時から緩和ケアを受けられることを周知する体制ができている		
がん診断にかかわる医療従事者が質の高い緩和ケアを提供できる体制ができている		
緩和ケアチームと主治医等が十分連携が取れる体制ができている		
患者が在宅療養する際、病院と地域と連携可能な体制ができている		

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
全てのがん患者とその家族が、居住する地域にかかわらず、必要な時に質の担保された緩和ケアを受けることができる		
患者やその家族が痛みやつらさを軽減でき自分らしく納得して生活できている		

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
【相談支援】 不安を感じたときから 相談支援を受けられて いる	患者意識調査により、相談できる 窓口を知っていると回答した人の 割合	100%
【相談支援】 質の高い相談支援が 提供できている	患者意識調査により、相談支援 の対応に満足したと回答した人 の割合	100%
【情報提供】 必要とする正しい情報 がどこにあるか、わかっ ている	県民アンケートにより、県のがん 情報の場所を知っていると回答し た人の割合	100%

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
【相談支援】 すべての県民の不安や 悩みが解消できている	患者意識調査により、不安が解 消されたと回答した人の割合	100%
【情報提供】 すべての県民が安心して 生活できる情報を入 手できている	県民アンケートによりがん情報に 満足できていると回答した人の割 合	100%

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値
患者も参加できる合同研修会の実施回数		
がんに関する啓発・研修の参加者数		

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
社会資源(当事者・多職種を含む)の連携体制が整っている		
質の高い医療連携の提供がされている	がんに関する患者意識調査の満足度が上がる	
患者が望む必要な情報の一元化がされている	がんに関する患者意識調査の満足度が上がる	
患者も情報を収集し、学ぶ必要がある	がんに関する啓発・研修の参加者数	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
患者が安心して暮らせる地域となっている	患者の幸福度が上がる	

事務局追記:
 この分野は、①拠点病院等と地域との連携、②在宅緩和ケアがテーマとなっています。
 それを前提としてロジックモデルをご覧ください。

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
患者が治療費を無理なく負担できている	費用負担が原因で公的医療保険内の治療を変更・断念した人の割合	
	「治療のために貯金・資産の取り崩しや借金をした」と回答した患者の割合	
患者が希望する働き方を選択できている	時短勤務、在宅勤務制度等、がん治療と就労の両立を支援している中小企業の割合	
がん患者の就労に対して、職場が理解をもっている	職場内で「がんであることを理由に偏見や差別を感じたことがある」と回答した患者の割合	
	がんによる休職後に復職希望し、復職した人の割合	
	がんで退職後に新卒就労を希望し、新規就労した人の割合	
患者が社会から偏見をもたれない状態である	「がんであることを理由に、偏見や差別を感じたことがある」と回答した患者・家族の割合	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
患者ががんになっても自分らしくいきいきと働き、安心して暮らせている	「がんと診断されたみとを理由に、生活の不安が増した」と回答した患者の割合	
	「社会とのかかわりの中で生活できている」と回答した患者の割合	

対象者、内容ともに幅広い分野のため、このロジックモデルでは、「小児・AYA世代の社会生活」に絞り、医療の充実、および高齢者の医療・社会生活は別途検討することを前提とした。

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
小児・AYA世代が療養中に十分な教育を受けている	院内学級数	
小児・AYA世代が患者と良好な関係を維持できている	小児の兄弟にケア明けを提供された件数	
	療養中に家族と一緒に過ごした日数	
	ファミリーハウスの数	
小児・AYA世代に特化した相談に対応できる窓口が整備されている	研修を受けた相談員の数(できれば拠点病院ごと)	
就労支援体制が整っている	小児・AYA世代の就労を受け入れる企業の数と就労数	
妊孕性についての情報が適切に提供されている	妊孕性温存に関する情報が提供された40歳未満のがん患者の割合(患者体験調査)	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
小児・AYA世代が不安なく日常生活を送れている状態である		

施策		
内容	指標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
専任の保健師がそろっている	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	
検診啓発ボランティアがそろっている	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	
制度管理に関する知識を十分に持った職員がそろっている	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	
すべての患者に対し、告知から療養生活までサポートできる専門家が十分そろっている	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	

最終アウトカム		
目標	指標	
	現状値	目標値
受診率向上のための必要な人材が確保できている(がん予防)	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	
検診制度管理のための人材が確保できている(がん予防)	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	
患者と医師の間をつなぐ人材が確保できている(がんとの共生)	分野別アウトカム目標に基づいて設定していく	

内 容	施 策	
	指 標	
	現状値	目標値

中間アウトカム		
目 標	指 標	
	現状値	目標値
子どもたちが学校教育などを通じて、正しい知識が得られている	授業前後の子どもの知識の変化	
県民ががんの正しい知識や情報を得られている	正しい知識を得ている県民の割合	
患者が自分の病状や治療方法を正しく理解している	自分の病状や治療について学ぶ場があったと回答した患者の割合[要開発]	

最終アウトカム		
目 標	指 標	
	現状値	目標値
みんなががんの正しい知識を理解し、予防や早期発見のために行動をしている	たばこ喫煙率の減少	
	検診受診率の増加	
	塩分接種量の減少	
	野菜摂取量の増加	
がん患者が誤解や偏見を受けることなく、安心して自分らしく生きられる社会になっている	周囲の対応に傷ついた割合[要開発]	
自分や家族ががんに罹患しても、それを正しく理解し、向かい合うことができる	[要開発]	